



福井商工会議所 青年部会報

FUKUI

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

No. 52

第52号 平成3年11月1日発行

発行所

福井商工会議所青年部：福井市大手3-13-1
13-1, 3-Chome, Ohte, FuKui-City, JAPAN 〒910
TEL:0776-23-8111 FAX:0776-23-8475

発行者：竹越治美
編集者：真木康至

福居



第4回「秋色・ときめき・ハートランド」にて大綱引き

秋晴れの2日間!! 一万六千人で盛りあがった駅東大通り

第4回 秋色・ときめき・ハートランド
「駅東がプロードウェイになっちゃった」開催

第四回ハートランド事業は、駅東大通り(二回目)にて始めて天候にも恵まれ、多数の参加者と大勢の人々が来場され、実行委員として、本当にやって良かったと喜んでおります。

昨年は市民の広場委員会にて、駅東大通りを広場として提案し、地元住民とのフォーラムを通じて、駅東を考えました。今年度は地域活性化委員会にて、もっとより良いハートランドを作ろうと、委員長・副委員長を中心に計画しました。『この指とんぼ』を合言葉に、ハートランドの骨格作りを昨年の暮より始めました。

本テーマは「文化・自然・人」です。そして今年には体験を取り入れ、トンカチ広場・少林寺・ヨガ・そば打ち体験道場等、その場で参加しふれ合える広場を提案致しました。青年会議所より参加して頂いた「駅東宝さがし」も体験して頂く一つであります。昨年も好評だった景観バスツアーは、常に満員で、青年部会員も乗れなかった様でした。以外に福井市内を観覧する体験が少ないことに気づいた次第です。

また、昨年のストリートでの人形芝居を見る、子供達の目が輝いていたことを思い、人形と語り座の座長に、駅東大通りを人形芝居や、演劇のストリートに

出来ないか、と話しをしているうちに、企画案が座長より出て来ました。それが「駅東がプロードウェイになっちゃった」です。

しかし、青年部には限られた予算しかないので、満足をプロードウェイを作れたかどうかは、わかりません。もっともっと広がりを持ち、各青年が集合し、色々な企業が賛同して頂ければ、素晴らしい演劇集団や、もっと数多くの地元演劇集団が集えるのではないかと思っております。



オープニングのテープカット



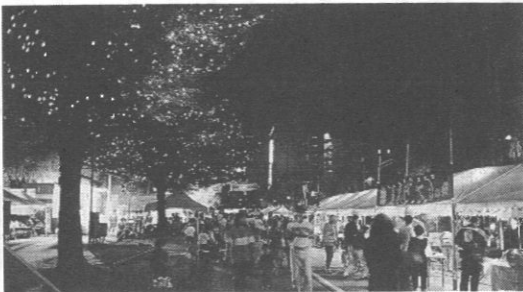
マルセ太郎の舞台



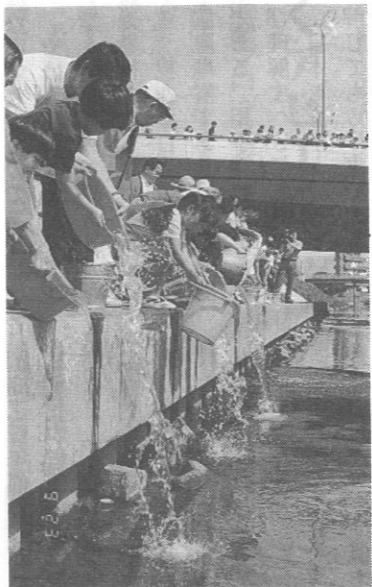
人形と語り座の公演

今回のプロ集団や、福井で活躍中の演劇や人形劇団の参加により、昨年よりはるかに、子供達も楽しい思い出になり、大人達も、自分達の子供の頃を思い出して頂けたのではないかと思っております。

音楽あり、演劇あり、フリーマーケットあり昨年以上の広がりであり、もっと大きくなる可能性を合わせもった駅東大通りを、来年も開催できるかは、次年度会長におまかせしておきます。



ケヤキ並木のライトアップ



荒川に錦鯉を放流

私自身が担当したライトアップは、(株)北陸電力福井営業所の協力により実現しました。昨年と今年の二年にわたり、ケヤキ並木のライトアップを実施したのは行政に対する提案であり、ただ明るいだけのライトではなく、雰囲気のある明るい街づくりを提案しているのではありません。

今、青年部が提唱したいのは、単一団体より、多数の団体で参加し、考え、体を動かすことが、今忘れていることではないか、皆さんで何かやりましょう。今回のハートランドが昨年より一段と反響を呼んだ

ことは、参加頂いた各種団体、各種企業からの持ち寄り、各数多く、また青年部の各委員会がハートランドに對し、一つにまとまって頂いた結果だと感謝しております。

副会長
五十嵐 長



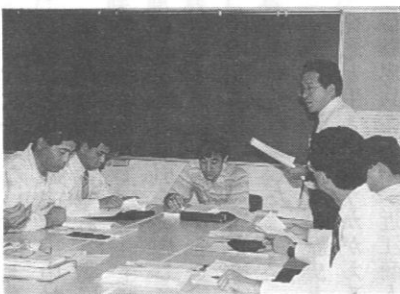
実践異業種交流会の開催報告

研修・交流委員会

七月十三日、福井県中小企業産業大学校にて、当委員会主催の「実践異業種交流会」が、四十名近くの会員の参加を受けて盛大に開催された。

本交流会は会員企業の企業紹介や若手経営者として自ら成長・発展することを目指すと共に、会員相互の親睦・ネットワーク作りを目標としたものである。

福井の異業種交流の第一人者である福井県中小企業



団体中央会白崎壽一氏より、卓話「今なぜ異業種交流」を聴取後、四つの分科会に別れ交流を行った。各分科会テーマが、非常に大きなテーマにもかかわらず、会員の真剣な討論により多くに盛りあがった。

特に、福井県障害者雇用促進協会高橋龍一氏による労働力の動向と人手不足対策に関する熱心な指導や、福井商工会議所竹内宏氏による日米経済摩擦の動向は、多くに参考になると共に、市川会員の仕事と生きがいに関する討論は参加会員にヒントを与えた様だ。

交流会閉会後は、ガラリと雰囲気を変え、サウナ・ローレルにて親睦会を実施した。文字通りの裸のつきあいを目指して、講師の先生方及び会員による熱心な交流が続けられた。

リレー随筆

海外旅行ブーム

橋 敏夫

ここ数年来の海外旅行ブームはものすごいものがあるが、その背景として考えるのは、かつてない好況・日本経済の大型化といえる。これにより円高となり、場合によっては国内旅行の方が高つく、というような現状。諸外国の場合は、不況の時に労働時間の短縮が進むが、日本の場合は逆で、好況の時に労働時間短縮が進む、という事実により休日が増え、また、超大型連休が実施されることによる余暇の創設、さらには女性の自立化、好況等による企業の体力アップ、そして人材確保という面もあるが、海外社員旅行が行われる事が多くなってきたことなど、要するに、海外へ出かけやすくする条件が整ったとい

う事がある。さらには日本人特有の横にらみ、人なみ主義が、さらにブームをおおっているといえよう。しかし、である。その出かけ方、目的に最大の問題があるのではなからうか、つまり先にのべたように横にらみ、人なみ意識で出かけてくるのでは、何も得る所はないであらうし、また、何の目的もなく団体旅行というのでは、あまりにさみしいのではなからうか。

この様な事だから買物ツアー、札束攻撃と不評を買った、ただブランド物に血まなこになり、金魚のフンよろしく、ゾロゾロ団体旅行、何も見ず学ばずという事になってしまふのである。

やはり出かけるからには学んでくるべきであり、何かを得てくる事が最良である。現在の日本を考えれば、国際理解であり、国際交流である。相手(外国)を学び理解すべきであり、自分(日本)を学んでもらい理解してもらう事である。こ

れが本当の旅行の価値であり海外旅行の目的ではなからうか。こういった事は日本から出ずしては無理であろう、やはり目で見て、手で触れて、体で感じてこそできる事である。現状の海外旅行に一番欠けており、一番要求されている事である。これを実現してゆくべきである。

(今回は、江守さんにバトンタッチ。)

トレント企業視察 セミナーに参加して

青木 忠夫

八月五日、京都駅に、全国商工青年部各人が集合し、まず、中村菌化学研究所を訪れました。ユナルゲユ、ユナホルモン(菌を全く自然の複式培養法によって醸成し、さらに三、五年と熟成したのもの)といった製品を長年にわたり一貫して製造、販売しています。又、経営方針として、値上げし

ない、広告しない、借入れしないとし、販売は、中村菌製剤の体験者である薬局を特約店として、受注生産による現金取引を実施しているそうで、人に安全で、信用度の高い薬、商売に感心させられました。

次に、近江商人の歴史と発想と生き様がうかがえる伊藤忠兵衛生家、近江商人郷土館や、五法人六事業体から構成された異色のグループ近江兄弟社、今年四月オープンの子会社の新業態サティの最新店舗「サティ近江八幡」等を目的のあたりにして、近江商人がいかにかたくましく成長し、成功したか、至極刺激になりました。

翌六日、六万坪を有する寿長生郷を訪ね、「自然と人と菓子の合体が本当の和菓子の姿」や「もてなしの心を味わいました。さらに、創業以来二百年の伝統を誇る日本一の茶メーカー「福寿園」を話題のハイタッチリサーチパークを訪ね、茶

の心と伝統に触れました。そして又、ICセラミックパッケージで世界の六十%のシェアをもち、京都を代表するハイテク企業、京セラ本社を見学し、無事終了した次第です。

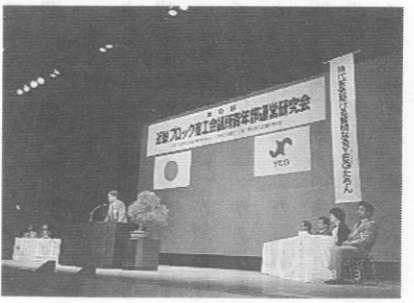
最後に、今回のような歴史ある大企業や最新のトレント企業を訪ね、お話を伺えて幸運に思いますと共に、青年部の方々の勉強熱心な姿勢や前向きな考え方に私は、非常に感心させられました。今後もこういった企画を期待します。

みなさんよろしく

—新入会員—
プロフィール—
伊藤 寛一郎
S二七年九月二八日生
(株)TV8チャンネル
福井市長本町一〇〇三
電話 五三二八〇八五
FAX 五三二八〇八三
(業種)CM・VP他
企画制作

福井を印象強くアピール

兵庫県高砂市にて、近畿ブロック運営研究会



九月三日午前七時福井市商工会議所青年部二十五名は、眠い目をこすりながら「たかさごや〜」の歌にある地で、近年「プライダールシティ」を宣言、播磨重工業地帯の中心に位置する工業都市である兵庫県高砂へと旅立った。往路五時間の車中では開催の迫ったハートランドを成功させるために地域活性化委員会が時間を惜しんでの打ち合わせ、また次年度に控える福井大

分に備えてのPR方法の手段取りとなかなか忙しいようである。

大会では、近畿各地より総勢三〇〇人余りの参加者を集め、主催者の挨拶及び来賓の祝辞を経て、次年度の福井大会への参加を竹越会長が呼び掛け通例の式典が終了。その後、第一分科会のためも含めて和田均全国商青連会長が『YEG SPIRIT』というテーマで現在の青年部の取り組み、これからの方向づけについて基調講演を行った。分科会では、青年部のありかたに各地青年部の意見を出しあい商青連の運営に反映させるべく会議を第一で、また『高砂らしさ』という事で大会参加者をアトランダム



に五班に振り分け地元を立地している大手企業視察を第二分科会で行った。

さすがに規模の大きな工場が林立しており圧倒される思いがした。個人的には三菱重工を視察、三十六万坪という広大な敷地に日本の電力の三分の一を作り出すタービンを製造している工場のスケールに、またきめの細かいクオリティ及びセキユリティシステムに驚くばかりであった。他の企

7月度例会 卓話

七月度の青年部例会には、講師に酒井理化学研究所所長 酒井弥氏をお迎えして「独創性を育てる」を演題に、卓話が行なわれました。数々の独創的な商品を開発されている著名な先生らしく、数点の品物を実際に持ってこられて、具体的な開発事例をもとに、大変興味深い講演となりました。

私たち青年部員も、実際に独創的な品物に触れることができ、中でも、男子高

業を視察したメンバーもかなりインパクトがあり満足度の高い分科会だったようである。懇親会での福井の活躍は抽選会、六名が当りくじ、うち一名は自転車をいとめて、これだけで福井の印象を強くしたのではないかと思う。

我々にとって次期大会の唯一とも言えるPRの場で

熱い思いが伝わったかどうか心配もあるが、今からの一年間、案を練り上げてホスピタリティ福井を青年部の手で作りたいものだ。

独創性を育てるには、個性を大切に、自然から雑談から学び、発想の芽を摘むことなく、今日できることは一晩熟成して明日もう一度することが大切な事だそうです。

尚、学力と独創的な発想とは無関係だそう。たとえ学力は不足していても独創的な考えはできるということで、各役員希望をもちつつ卓話は終了いたしました。



企業訪問

味噌醸造・販売

株米五

多田 和博

こんにちは！今回の企業訪問は味噌造りの老舗である『米五』さんです。

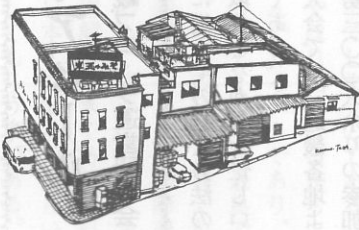
米五は寛文年間（徳川家綱のころ）、米屋を開設したのが始まりで、代々、米屋・五右衛門を襲名し、それが屋号となっています。味噌造りの創業が五代目、天保二年というところで、今年で満百六十年になります。

まずは、お店に入ってみましょう。店頭前には松尾芭蕉の「なき名たつ空とはいへど星こよい」が刻まれている「星冢」があります。これにちなんだ高級味噌「星冢」があります。その他、「米五のみそ（越前こうじみそ）」「藏（大本山永平寺御用達）」「天保二年」と味噌の種類も豊富です。今年の九月から米の販売も開始し、味噌の他に醤油、塩、酢の販売を行なっています。

ます。

さて、工場の方にまわってみますと、大きな味噌樽がたくさんあります。一つで二〜四トンの味噌が入ります。ここで、年間四百トン（福井の味噌生産の三分の二）の味噌を生産しています（これは企業秘密ですよ）。最高級の原料（米、塩、豆）を使いコンピューターによる厳格な温度管理のもとに仕込まれた味噌は六〜十ヶ月寝かせて市場に出ます。

今後とも、日本一おいしくて良心的な味噌造りの老舗として発展されることを期待して今回の企業訪問を終わります。



第15回市民の広場 フォーラム開催のお知らせ

今回の市民の広場のテーマは「見えてくるはずもうひとつの街」で、人が街を創るためにどのような問題点を目を向ければよいかを、提言者の方々とともに、語って頂くことは福井市中心部のみならず、福井の新しい都市づくりを考える上で、よい機会になると思います。私達の主張も含めて、より多くの市民の皆様のご意見とご協力を大願し、開催致したいと存じます。

〈日時〉

平成三年十一月九日

午後二時〜五時

〈開催場所〉

安田生命ビル11Fホール

〈内容〉

塚本幸三氏、藤田道男氏による基調講演、問題提起、テーブル討議、グループ発表などを開催いたします。

当青年部の ユニフォームできる

ユニフォームできる

ユニフォームは「顔である」とよく言われる。ユニフォームは我々青年部の現状や、こうありたいと思う理想像の表現手段の一つであり、同時にそれらに関係諸集団に正確に伝達する手段の一つである。対外的には青年部のイメージアップを図り、対内的には青年部のモラルアップを図ることによって、青年部活動全般をより効果的に展開できるようにすることを目標にしています。

イメージカラーであるブルーのジャンパーに、胸に「YEG STAFF」の文字が光ります。



石油製品・LPガス・燃料器具

日本石油特約販売店

モリチュ石油株式会社

代表取締役 森 忠 遠

福井市西方1-12-1
TEL (0776) 24-5888
FAX (0776) 24-5862